

基本方針 1 家庭系ごみを減らす3R運動の推進と三者協働

基本施策 1 制度の周知と分別の徹底

個別施策 1 情報提供の充実

【これまでの取組み】 <ul style="list-style-type: none"> サイチョypressの発行 ごみ分別アプリの配信 	【平成 30 年度実績】 <ul style="list-style-type: none"> 年 7 回発行 (263,000 部/回) 累計ダウンロード数 31,942 件 (平成 31 年 3 月末現在) 	【成果・課題】 <ul style="list-style-type: none"> 「サイチョypress」などの各種情報誌を継続して発行したほか、平成 27 年 3 月に「ごみ分別アプリ」を公開するなど積極的な情報提供を実施してきたが、平成 30 年度に実施した市民意識調査では、ごみに関する情報の入手手段について回答を求めたところ「サイチョypress」は 18.3%、「ごみ分別アプリ」は 2.8%であり、情報提供の媒体として認知度低い状況であることから、効果的な広報手段の検討が必要である。
---	--	--

個別施策 2 高齢者、単身世帯、転入者などへの対応

【これまでの取組み】 <ul style="list-style-type: none"> 家庭ごみ収集カレンダー ごみ分別百科事典 ごみ出し支援事業の実施 	【平成 30 年度実績】 <ul style="list-style-type: none"> 全戸配布 作成部数：2 万部 登録団体数：216 団体 利用者数：646 人 	【成果・課題】 <ul style="list-style-type: none"> ごみの排出日が一目で分かり易いと好評だが、両面刷りのため、裏面に気付かず、後期のカレンダーが届いていないなどの声もある。 転入者などに配付され、10 種 13 分別の本市のごみ分別制度を分かり易く解説している。 コミュニティ支援型で近隣住民間の相互扶助の精神醸成の一端を担っているが、東区・中央区・西区での登録が多く、それ以外の区では、登録が伸び悩んでいる。
--	--	--

個別施策 3 雑紙、プラスチック製容器包装の分別推進

【これまでの取組み】 <ul style="list-style-type: none"> 分別呼称の変更 (平成 25 年度) 「プラスチック製容器包装⇒プラマーク容器包装」 雑がみ減量キャンペーンの実施 	【平成 30 年度実績】 <ul style="list-style-type: none"> ごみ組成調査：家庭系(速報値) 燃やすごみの組成割合 紙類：23.4% プラマーク容器包装類：15.2% 	【成果・課題】 <ul style="list-style-type: none"> ごみ減量・リサイクルの取組みにより「燃やすごみ」に含まれる資源物(紙類)やプラマーク容器包装の割合は減少しているが、現計画開始時(平成 24 年度)と比べて大きな変化はないことからさらなる分別の徹底の必要がある。
--	--	---

個別施策 4 ごみ分別制度の全市統一に向けた理解の促進

【これまでの取組み】 <ul style="list-style-type: none"> 巻広域地区で分別モデル収集を実施 平成28年度：69%の世帯が参加 平成29年度：96%の世帯が参加 	【平成 30 年度実績】 <ul style="list-style-type: none"> 平成 30 年 4 月から全市で 10 種 13 分別収集に統一 	【成果・課題】 <ul style="list-style-type: none"> 全市で 10 種 13 分別に統一されたことから、さらなるごみ減量・資源化を図るため、分別周知の取組みを継続する。
--	--	--

基本施策 2 意識啓発・環境教育の推進

個別施策 1 幅広い年齢層への環境教育の充実

【これまでの取組み】 <ul style="list-style-type: none"> 社会科副読本「ごみってなあに？」の作成・配布 (平成 30 年度版より他の副読本へ合本) 出前講座 (小学 4 年生対象) 出前授業 (小学校低学年、未就学児対象) エコプラザ (啓発棟) での体験講座 	【平成 30 年度実績】 <ul style="list-style-type: none"> 環境教育副読本「行動するわたしたち」 7,300 部作成・配布 講座 56 校、3,064 人 授業 79 校、4,346 人 講座：194 回 参加者数：2,506 人 	【成果・課題】 <ul style="list-style-type: none"> 出前講座での教材としても効果的に活用された。 対象児童に応じたメニューの更なる充実。 3R を浸透させるべく多様な講座を開催した。
--	--	--

個別施策 2 地域における意識啓発・環境教育活動の推進

【これまでの取組み】 <ul style="list-style-type: none"> リユース食器普及事業 	【平成 30 年度実績】 <ul style="list-style-type: none"> 休止 (平成 29 年度利用件数：121 件) 	【成果・課題】 <ul style="list-style-type: none"> 使い捨て容器削減のため、地域の行事等を対象にリユース食器利用助成を平成 26 年度から実施した。利用件数は増加したが、利用団体が固定化する等したため、平成 30 年度は休止し、制度の見直しを検討中。
--	---	--

基本施策3 3R・生ごみ減量の推進

個別施策1 マイバッグ運動などリデュースの推進

【これまでの取組み】 <ul style="list-style-type: none">・マイボトルキャンペーンの実施・マイバッグ運動	【平成30年度実績】 <ul style="list-style-type: none">・応募件数 1,150件参画店舗数：176店舗	【成果・課題】 <ul style="list-style-type: none">・市民・事業者双方のリデュース意識の定着を図るため、マイボトル店舗を募集しマイボトルの普及を目的として参画点を募った。キャンペーンへの応募件数が年々増加するなど、一定の効果を得たため、平成30年度でキャンペーンを終了した。・マイバッグ運動については、事業者が独自に袋の有料化などを実施するほか、市民自らが買い物の際にマイバッグを持参するようになっているが、不要なレジ袋の削減に向けた取組みが必要である。
--	--	---

個別施策2 古布・古着などのリユースの推進

【これまでの取組み】 <ul style="list-style-type: none">・古布・古着拠点回収事業・リサイクル提供事業	【平成30年度実績】 <ul style="list-style-type: none">・拠点数：8か所回収量：155,340kg・エコープラザ（啓発棟）提供点数：1,285点	【成果・課題】 <ul style="list-style-type: none">・区ごとに古布・古着の回収拠点を設置するとともに、情報誌を通じた啓発により、古布・古着のリサイクルが定着しつつある。売り払い先である海外のマーケットが縮小しつつあり、売却収入の先行きが懸念される。・家具などを修理し、施設にて展示の上、希望者に提供した。
---	---	---

個別施策3 使用済小型家電等の新たなリサイクルの推進

【これまでの取組み】 <ul style="list-style-type: none">・使用済小型家電拠点回収 (52か所 ボックス・対面)	【平成30年度実績】 <ul style="list-style-type: none">回収量：20,239kg (平成29年度：13,589kg)	【成果・課題】 <ul style="list-style-type: none">・回収量は増加しているが、禁忌品が出されるなどといったマナーの悪化や、中国のプラスチック輸入禁止等の影響からか、使用済小型家電を分解、前処理した後に発生する残さの処分費用が高騰しており、売却益を収集・処分費が上回る状況になっている。
---	--	---

個別施策4 生ごみ減量・リサイクルの推進

【これまでの取組み】 <ul style="list-style-type: none">・生ごみ堆肥化活動の促進<ul style="list-style-type: none">↳生ごみ堆肥化機器の購入補助↳乾燥生ごみ拠点回収↳段ボールコンポストの普及↳地域における生ごみ堆肥化活動への支援・古紙集団資源回収事業・古紙拠点回収事業	【平成30年度実績】 <ul style="list-style-type: none">・補助件数：125件・回収量：2,820kg・販売数：504個・回収量：4,627kg・回収量：27,327t登録団体数：1,852団体・回収量：780t拠点数：16カ所	【成果・課題】 <ul style="list-style-type: none">・生ごみのリサイクルにつながる様々な取組みを進めることにより、多くの方から取り組んでいただいているが、生ごみの発生抑制につながる取組みが少ないほか、「食品ロス」について、食品リサイクル法の基本方針においても市町村での取組みが求められていることから、本市の実情にあった対応が必要である。・古紙類の再資源化と家庭ごみ排出量の削減に寄与した。地域に還元される支援金、奨励金により地域活動の活性化に貢献した。・海外での輸入制限により、特に雑誌・雑がみの価格が値崩れしており、古紙のリサイクルに支障をきたす懸念がある。
---	--	---

基本施策4 市民・事業者・市の協働した体制づくり

個別施策1 クリーンにいがた推進員制度の充実

【これまでの取組み】 <ul style="list-style-type: none">・クリーンにいがた推進員育成事業	【平成30年度実績】 <ul style="list-style-type: none">・推進員：5,722人・研修会参加者数：1,685人・施設見学会参加者数：186人	【成果・課題】 <ul style="list-style-type: none">・地域の美化及び分別意識の向上が図られたが、地域における活動内容の差が見受けられる。・自治会役員等の高齢化により、推進員の選任に困難を来している地域がみられる。
--	---	--

個別施策2 三者協働による推進体制の整備

【これまでの取組み】 <ul style="list-style-type: none">・生ごみ減量講座（水切り講座等）における市民団体からの講師派遣・地域における生ごみ堆肥化活動（再掲）	【平成30年度実績】 <ul style="list-style-type: none">・生ごみ水切り講座参加者数：73人・生ごみ堆肥化拠点数：3か所	【成果・課題】 <ul style="list-style-type: none">・生ごみ関連講座や地域における生ごみ堆肥化事業では、市民・事業者・市の三者協働による施策を展開してきたが、さらなるごみ減量への取組みを推進するため、あらたな推進体制の整備の検討が必要である。
---	--	--

基本方針2 事業系ごみの排出抑制と資源化の推進

基本施策1 制度の周知徹底

個別施策1 制度のより分かりやすい周知手法の検討

【これまでの取組み】 <ul style="list-style-type: none">・新ガイドラインを作成（平成26年度） ※平成27年度から本格実施	【平成30年度実績】 <ul style="list-style-type: none">・事業系廃棄物処理ガイドラインの普及	【成果・課題】 <ul style="list-style-type: none">・事業所からの問い合わせ事項を参考に、これまでのガイドラインから、より分かりやすい表現に変更するなどの見直しを行った結果、分別の理解が深まり、事業系ごみの減量及び適正な分別意識の向上に寄与した。
---	--	--

個別施策2 排出事業者訪問指導の強化

【これまでの取組み】 <ul style="list-style-type: none">・事業用大規模建築物（排出事業者）への訪問指導・事業用大規模建築物廃棄物管理責任者講習会の開催	【平成30年度実績】 <ul style="list-style-type: none">・訪問指導数：71事業所・廃棄物管理責任者講習会の開催	【成果・課題】 <ul style="list-style-type: none">・分別状況の把握・改善を直接促すことで、具体的な改善点の個別指導が図られた。
--	--	---

基本施策2 排出事業者のごみ減量への動機付け

個別施策1 優良事業者を評価する環境の整備

【これまでの取組み】 <ul style="list-style-type: none">・3R優良事業者認定制度	【平成30年度実績】 <ul style="list-style-type: none">・認定件数 トップカンパニー：85事業者 パートナーカンパニー：4事業者	【成果・課題】 <ul style="list-style-type: none">・認定件数が伸び悩むほか、認定を受けた事業者の多くが大規模な事業者であることから、中小企業にも制度を浸透させ、事業者の3R意識向上の裾野を広げる努力が必要である。また、認定事業者がより積極的に3Rに取り組む後押しとなるよう、制度の周知が必要である。
--	--	---

個別施策2 ごみ減量がコスト削減につながる方法の提案

【これまでの取組み】 <ul style="list-style-type: none">・新ガイドラインを作成（平成26年度）	【平成30年度実績】 <ul style="list-style-type: none">・訪問指導数：71事業所	【成果・課題】 <ul style="list-style-type: none">・主に大規模事業者に対する訪問指導時において、段ボール等の分別徹底により有価物として売却できる可能性を提案した。
---	--	---

基本施策3 分別及び資源化の促進に向けた誘導

個別施策1 古紙搬入規制の徹底

【これまでの取組み】 <ul style="list-style-type: none">・新田清掃センター、亀田清掃センターで展開検査を実施	【平成30年度実績】 <ul style="list-style-type: none">・展開検査を実施	【成果・課題】 <ul style="list-style-type: none">・排出事業者及び収集運搬業者の適正な廃棄物の排出に向けた抑止効果があった。
--	--	--

個別施策2 びん・缶の搬入規制

【これまでの取組み】 <ul style="list-style-type: none">・新田清掃センター破砕施設にて展開検査を実施（平成27年度展開検査終了）	【平成30年度実績】	【成果・課題】 <ul style="list-style-type: none">・新田清掃センターに搬入される不燃ごみ中のびん・缶の混入率が大幅に減少した。
--	-------------------	---

個別施策3 食品リサイクルシステムの構築

【これまでの取組み】 <ul style="list-style-type: none">・学校給食残さの飼料化・堆肥化	【平成30年度実績】 <ul style="list-style-type: none">・147校（小、中、幼、特別支援） 飼料化：79t 堆肥化：389t	【成果・課題】 <ul style="list-style-type: none">・再生利用の優先順位は、①飼料化、②堆肥化、③メタン化等であるため、飼料化を拡充するルートの構築が必要である。
---	--	--

基本施策4 産業廃棄物の混入防止

個別施策1 産業廃棄物の搬入規制の強化

【これまでの取組み】 <ul style="list-style-type: none">・食料品製造業者へ立入検査を実施（平成24年度）・新田清掃センター破砕施設にて展開検査を実施（平成27年度展開検査終了）	【平成30年度実績】	【成果・課題】 <ul style="list-style-type: none">・食料品製造業者からの動植物性残さ、廃プラスチック等産業廃棄物の適正処理が図られた。・新田清掃センターに搬入される不燃ごみ中の廃プラスチック等産業廃棄物の混入率が大幅に減少した。
---	-------------------	---

基本方針3 違反ごみ対策ときれいなまちづくりの推進

基本施策1 ごみ集積場における違反ごみ対策

【これまでの取組み】	【平成30年度実績】	【成果・課題】
<ul style="list-style-type: none">・分別呼称の変更（平成25年度） 「プラスチック製容器包装⇒フタマーク容器包装」 「有害・危険物⇒特定5品目」・ごみ集積場設置補助・クリーンにいがた推進員育成事業・清掃事務所職員による早朝巡視・大学・専門学校での説明会	<ul style="list-style-type: none">・申請件数：659件・推進員：5,722人・早朝巡視 巡視した自治会数：2,422 巡視した集積場数：2,532・説明会回数：28回 説明者数：2,858人	<ul style="list-style-type: none">・かねてより言葉のイメージから分別誤りが多く、市民から紛らわしいとの指摘があった2つの分別区分について、呼称を変更したところ、問い合わせが減少する等一定の効果があった。・集積場の更新等により地域の環境美化に寄与した。集積場の増加に伴い、収集時の作業量が結果として増加している。・地域の美化及び分別意識の向上を図ったが、自治会役員等の高齢化により、推進員の選任に困難を来している地域がみられる。・クリーンにいがた推進員等と連携し、分別に対する疑問の解消や違反ごみの抑止に寄与した。・一人暮らしを始める場合の多い大学生等のごみ出しマナー向上のため、入学時に学校を訪問して分別ルールについて説明することで、違反ごみの抑止に寄与した。

基本施策2 ごみ・資源物のごみ集積場からの持ち去り行為の禁止に係る周知及び取締り

【これまでの取組み】	【平成30年度実績】	【成果・課題】
<ul style="list-style-type: none">・ごみ集積場への持ち去り禁止看板の設置・清掃事務所職員による定期パトロール	<ul style="list-style-type: none">・希望する自治・町内会へ配付・早朝パトロール： 年間約15,500集積場を実施 重点地区の設定：市民等からの通報等があったエリア内を重点的にパトロール	<ul style="list-style-type: none">・ごみ・資源物の持ち去り禁止を周知することが出来た。・資源ごみ等回収日に合わせた日常的なパトロールの抑止効果として、持ち去り行為が減少した。

基本施策3 地域と連携した美化活動・ぽい捨て等防止活動の推進

【これまでの取組み】	【平成30年度実績】	【成果・課題】
<ul style="list-style-type: none">・地域一斉清掃やボランティア清掃の定期的な実施及び市民参加の促進・ぽい捨て等行為への地域と連携した指導・啓発強化・自治会等による自主的な美化活動の促進	<ul style="list-style-type: none">・158,070人 うち若年層1,958人 (いずれも見込み)・環境美化指導員による指導巡視 過料63件・清掃イベント7～9月で4回開催 4,877人参加 回収ごみ量14,355kg・地域清掃等補助金 706件 14,903,500円 (いずれも見込み)	<ul style="list-style-type: none">・参加団体・人数ともに増加しており、地域の主体的な美化活動に寄与している。・市内中心部全域で路上喫煙率の減少がみられた。・まちなかや海岸など各地区での清掃活動を通じ、地域美化を啓発した。・補助金の申請件数、補助金額とも年々増加している。・申請時の事務負担軽減が求められている。

基本方針4 収集・処理体制の整備

基本施策1 安定的かつ効率的な収集運搬体制の構築

【これまでの取組み】 <ul style="list-style-type: none">・安定的かつ効率的な家庭ごみの収集運搬 <ul style="list-style-type: none">・処理施設の統廃合による搬入先の変更	【平成30年度実績】 <ul style="list-style-type: none">・収集運搬業者数：30社・ごみ：120,156t・資源：36,929t (H30.2月末実績) <ul style="list-style-type: none">・白根広域の飲食用・化粧品びんの搬入先変更	【成果・課題】 <ul style="list-style-type: none">・集合住宅の建設や高齢化による集積場の新設に起因するごみ集積場の増加に伴い、収集時の作業量が増加している。・高齢化に伴うごみの分別と排出困難者が増えつつある。・燃やすごみの収集回数が他政令市と比較して多い状況であり、現在の体制が適正かどうかの検討が必要。 <ul style="list-style-type: none">・処理施設の統廃合との調整が必要。
---	--	---

基本施策2 効率的な適正処理・処分の実施

【これまでの取組み】 <p>施設建設、延命化工事の実施により適正処理体制を確保</p> <ul style="list-style-type: none">◎ 施設建設<ul style="list-style-type: none">・新田清掃センター：平成24年度稼働開始・第4赤塚埋立処分地：平成24年度稼働開始◎ 延命化工事<ul style="list-style-type: none">・亀田清掃センター：平成28年度稼働開始	【平成30年度実績】 <ul style="list-style-type: none">・新田、第4赤塚、亀田とも安定稼働を継続	【成果・課題】 <ul style="list-style-type: none">・施設更新、延命化により処理の安定化が図られ、適正処理体制を確保した。・新田、亀田ともに工事前に比べ、消費電力低減、発電量増加が図られ、温室効果ガスの排出量を削減するとともに、余剰電力の売却により維持管理費の低減も図られた。・鎧漕クリーンセンター、豊栄環境センターに加え、延命化工事を行った亀田清掃センターも老朽化が進んでいることから、更新を含めた今後の施設体制を検討する時期となっている。
---	--	--

基本施策3 廃棄物処理施設のあり方の検討

【これまでの取組み】 <p>ごみの減量、施設の老朽化に伴い、施設の統廃合</p> <ul style="list-style-type: none">◎ 焼却施設：6施設⇒4施設<ul style="list-style-type: none">・白根グリーンター：平成23年度末廃止・新津クリーンセンター：平成27年度末廃止◎ 粗大・不燃ごみ処理施設：5施設⇒3施設<ul style="list-style-type: none">・新津クリーンセンター（粗大）：平成27年度末廃止・白根グリーンター（粗大）：平成30年度末廃止◎ 市民の利便性確保のため、廃止施設は市民の自己搬入のみ受入を継続	【平成30年度実績】 <ul style="list-style-type: none">・稼働施設での処理を継続・焼却では更新や延命化により健全度が高く、また、発電効率が高い新田、亀田を最大限に活用	【成果・課題】 <ul style="list-style-type: none">・施設の統廃合により、効率的な処理が可能となった。・将来的にごみ量減少が見込まれる状況であることから、更なる効率化を図るため、老朽化した施設の更新に合わせ統廃合を検討する必要がある。
--	--	---

基本施策4 大規模災害に備えた事前の体制整備

【これまでの取組み】 <ul style="list-style-type: none">・災害廃棄物処理計画策定（平成28年度）	【平成30年度実績】 <ul style="list-style-type: none">・西日本豪雨災害支援のためパッカー車2台派遣（8月）・部内勉強会開催（11月）	【成果・課題】 <ul style="list-style-type: none">・災害時に必要となる体制や装備、処理能力等は計画で算定済みである。計画の実効性を高めるため、仮置場候補地の選定や業界団体等との協定内容の確認を行う必要がある。
--	--	--